

(1日本史プリント2-4)

第2章 4. 天平文化 a,天平文化と大陸

①[1 天平]文化は奈良時代の[2 平城]京を中心とするはなやかで高度な[3 貴族]文化

・[4 盛唐]文化の影響が強い[5 国際]色豊かな文化

[7 遣唐使]などの派遣と、唐のイ 東西交易

・[6 鎮護国家]思想に基づく[7 仏教]文化

②歴史の編纂=目的: 8 政府による統治の由来や国家の形成発展

の経過を示すため

→[7 天皇]の支配の正当性を示す

1) [9 古事記] (612完成)…[10 稗田阿礼]の口述、[11 太安万侶]が記録
←宮廷に伝わる[12 帝紀][13 旧辞]が背景?日本語を漢字の音訓で表記

2) [14 日本書紀] (620)…[15 舍人親王]らによる公的な歴史書、[16 編年]体
以後、平安中期まで朝廷による6つの漢文正史([17 六国史])が編纂される。
→おもに奈良時代の歴史を記したもの([18 続日本紀])

③地誌=[18風土記]…各地の地理・産物・伝説などを収録。[19 出雲]など5カ国分のみ残る
完全な形で残る

④文学

1)漢詩…[20 懷風藻]としてまとめられる(主な作者…大友皇子・[21 大津皇子]・長屋王)
8世紀の詩人…[22 淡海三船]・石上宅嗣 白鳳期
(→私設図書館?[23 芸亭]を開放)

2)和歌…[24 万葉集]としてこれまでの時代の作品をあつめる(編者[25 大伴家持]?)

記述においては[26 万葉]文字を使用、心情を率直にあらわす
東歌・[27防人]歌など民衆の歌謡などもおさめる

代表的歌人([28山辺赤人][29山上憶良]大伴家持ら) + [30額田王][31柿本人麻呂]

b, 国家仏教の展開

①仏教の発展=32 国家の保護 をうけて発展 (官立大寺院中心=[31 薬師寺]など)

僧侶は国家の「[32 公務員]」([33 僧尼] 令に規定される)、寺院での限定された活動が中心
※道慈・[33 行基]=社会事業と民衆布教につとめる

阿修羅像を書いてみよう

仏教の位置づけ…[34鎮護国家]の思想=仏教によって35 国家の安定を図る という考え方
[36 呪術] 的性格が強い

741[37 国分寺・国分尼寺建立]の詔・743[38 大仏造立]の詔→752 完成

[39 政治]との結びつきが=[40 玄昉][41 道鏡]らの出現

②[36南都六宗] (三論・成実・法相・俱舍・華嚴・律) …37 教理研究 が中心、学問上の違い

僧侶は知識人の性格…[38遣唐使]にともなう僧の留学、中国からの[39 鑑真]らの渡来
=律宗をつたえる(「[40 唐招提]寺」)

③仏教の日本への定着…[40現世利益]を求める手段となったり、[41 祖先]信仰と結合

[42現世利益]思想も発生=神と仏は本来同一であると考え

[43 山林修行僧]の出現→仏教を深めようとする=平安仏教の母体となる

c, 美術と工芸

①建築 法隆寺伝法堂・[43 東大寺法華堂] (三月堂)・[44 唐招提寺講堂]・唐招提寺金堂
→貴族の邸宅を移築 →平城宮の朝堂院を移築

東大寺正倉院→[45 校倉]造でつくられる

②彫刻 [46 写実] 的で美と力にみちた内容。([47 塑像][48 乾漆像]の手法の採用)

塑像…木を芯として[49 粘土]を塗り固めるやりかた。

代表作: 東大寺戒壇院[50 四天王]像、東大寺法華堂[51 日光・月光菩薩]像・執金剛神像

[52乾漆]造…原型の上に巻いた[53 麻布]を[54 漆]で塗り固め、原型を抜き取る技法

代表作: 唐招提寺[55 鑑真]像、興福寺十大弟子像・八部衆像([56阿修羅]像など)
東大寺法華堂[57不空罽索観音]像

③絵画: [58 鳥毛立女屏風] (正倉院)・薬師寺[59 吉祥天]像←唐の「樹下美人図」などの影響

「過去現在絵因果経」…釈迦の一生を示し[60 絵巻物]の源流となる

④工芸 東大寺[61 正倉院]宝物=62 聖武天皇の遺品など を納める。きわめて保存状態がよい

服飾・調度品・楽器・武具など多様な品々を納める

→[63 宮廷]生活の文化水準の高さと[64 国際]性を示す。

→[65 螺鈿紫檀五絃琵琶]など、[66 西アジア]や[67 南アジア]との交流も示す